

平成28年第1回定例会（2月議会） 産業観光分科会・委員会 提出資料

平成28年2月24日
観光文化スポーツ部

【所管事項関連】

スポーツ振興課 秋田県市町村未来づくり協働プログラム …… 1
～鹿角市プロジェクト～「スキーと駅伝のまち
“賑わい創出”プロジェクト」事後評価について

秋田県市町村未来づくり協働プログラム～鹿角市プロジェクト～
「スキーと駅伝のまち」賑わい創出”プロジェクト”事後評価について

スポーツ振興課

平成 24 年度から平成 26 年度まで実施した鹿角市プロジェクトに係る事後評価の概要は、次のとおりである。

1 プロジェクトの目的

鹿角市の東山スポーツレクリエーションエリア内の施設整備とともにこれらを活用した選手育成や指導者養成講習会等の事業を実施することにより、「競技人口の拡大」や「競技力の向上」を図る。

また、スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致による「まちの賑わい創出」を推進する。

2 プロジェクトの事業内容

(1) 鹿角市実施事業 529,862千円

① 東山スポーツレクリエーションエリア魅力アップ整備事業

※交付金事業：交付金額220,000千円

- ・スモールヒルジャンプ台整備
- ・ランニングコース整備 等

② スキーと駅伝のまちづくり事業

- ・全国規模の大会の誘致 等

③ スポーツ交流事業

- ・スポーツ大会補助や合宿宿泊補助 等

④ はばたけアスリート鹿角コーチング事業

- ・トップアスリートによるジュニアクリニック 等

(2) 県実施事業 424,508千円

① 花輪スキー場施設改修事業

- ・ノーマルヒルジャンプ台改修 等

② スポーツを活用した交流推進事業

- ・スポーツ大会補助や合宿宿泊補助(全県対象) 等

(3) 県・市協働実施事業 42,467千円

① 鹿角広域観光推進事業

- ・鹿角広域観光推進会議による教育旅行誘致 等

② タレント発掘・育成事業

- ・選手強化プログラムの実施 等

③ 合宿・大会誘致事業

- ・県・市職員による首都圏大学等への訪問セールス 等

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値(H23)	目標値(H26)(a)	実績値(H26)(b)	達成率(b/a)
① スポーツ合宿利用者数	2,320 人	2,700 人	3,231 人	120%
② 主要な駅伝大会とスキー大会の参加者数	1,054 人	1,350 人	1,525 人	113%
③ ジュニアクリニック受講者数	537 人	700 人	700 人	100%
④ スキーと中距離種目の部員数	169 人	200 人	151 人	76%
⑤ 各種スポーツ大会・合宿に係る費用対効果倍率	—	対事業経費 1.50 倍	対事業経費 3.67 倍	245%

※⑤費用対効果倍率の算出基礎とした大会は全国高等学校スキー大会（H26）

4 経済波及効果分析

評価の客観性確保のため、本プロジェクトにより実施した施設整備及び大会開催事業について（一財）秋田経済研究所が行った経済波及効果の分析結果は次のとおり。

（単位：百万円）

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
建設費支出による経済波及効果	782	248	185	1,215
大会事業費支出による経済波及効果	108	35	22	165
大会参加者の支出による経済波及効果	177	74	36	287
合計	1,067	357	243	1,667

※経済波及効果の算出基礎とした大会は、全国高等学校スキー大会(H26)を含むH24からH26まで開催した6大会

5 民間アドバイザーの意見

民間アドバイザー：高橋義雄（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 准教授）

（1）トップアスリートとの連携について

トップアスリートと連携して「スキーと駅伝のまちづくり」を普及させるためには、アスリートに何を求めるのかを明確にするとともに、マネージメントしている人物も含め綿密かつ熱心な折衝が重要である。

（2）合宿誘致など国内外へのPRについて

今後、平昌、北京の冬季オリンピックを控え、海外チームがトレーニングや時差調整を行うことが予想される、その際、鹿角市の情報を積極的に発信し、国際的な活動や海外チームをサポートできるキーマンが必要である。

（3）若年層の満足度向上について

賑わい創出のためには、若年層の満足度向上が不可欠である。若者が大会運営に関わるなど、若者をターゲットとした大会の仕組みが必要である。

(4) ジュニア選手の育成について

小中高生の指導者の意思統一と、個々の選手の育成について情報共有を図ることが必要である。

6 全体評価

プロジェクト構成事業については、計画通り事業を実施に移すことができ、施設環境の充実と全国規模の大会の開催やスポーツ合宿を通じて、予定通りの賑わい創出を図ることができたと考える。

特に、韓国スキー連盟からの合宿が平成25年度以降継続していることは、大きな成果と捉えている。

また、プロジェクトの目的としていた競技人口の底辺拡大と競技力向上については、小中学校への強化指導員の配置や県・市協働事業における強化プログラムなどにより、少子化の中でも一定の競技人口を確保することができ、その中でもスキージャンプのスポーツ少年団員数が増加（H24：17人、H26：20人）したことや、ジュニア世界選手権に地元の高校から2名出場したことは、大きな成果と捉えている。

7 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、鹿角市において次のとおり推進することとする。

(1) トップアスリートとの連携について

市の魅力を市内外に発信することを目的とした「トップアスリート応援大使制度」の検討を行う。

(2) 合宿誘致など国内外へのPRについて

本プロジェクトによって築かれた関係団体とのネットワークを活かし、国外からの合宿誘致や冬季国体スキー競技会の定期開催などに向けたPRを行う。

(3) 若年層の満足度向上について

トップアスリートによる情報発信等を通じて、若者を含む市民意識の高揚を図るとともに、運営に若者が関わるなど、若者をターゲットとした大会の仕組みを検討する。

(4) ジュニア選手の育成について

引き続きトップレベルの指導者による指導機会の拡充や、選手強化プログラムの実施等により世界大会に出場する選手を継続的に輩出することを目指す。